

## 『金曜会パンフレット』総目録

許 金生・金丸裕一 編

### 前 言

ここで紹介する『金曜会パンフレット』とは、1929（昭和4）年1月発行の第一号から、1939（昭和14）年5月発行の第二百二十五号までの10年有余、上海において刊行され続けた不定期刊物である。同誌は、1932年2月から6月、及び1937年9月から10月にかけて、ともに第一次・第二次上海事変を原因として休刊した以外、基本的には毎月2冊、多いときは3冊、少ないときは1冊と変動はあるものの、10年以上にわたって発行されていた。

発行母体となった「金曜会」とは、1928年6月26日、上海日本商工会議所が中心となって結成された団体である。その当時、第二次山東出兵を主因として、成立間もない国民政府と民間諸団体は、対日輸出入貿易や交通・金融上の制限、中国商の手持品及び約定期品に対する通行証発行を通じた規制を実施し、かなり厳格な日貨排斥を進めいた。さらに、市内各所の商店に対しても日貨検査員を派遣するなど、いわゆる「排日」の趨勢は激化する様相を呈していた。これに対応すべく、前記の上海日本商工会議所を中心に、在華紡績同業会・上海日本綿糸同業会・上海日本綿布同業会・上海日本人糖商会・上海日本人紙商組合・上海日本工業薬品同業組合・上海工業同志会・上海海事懇話会・上海日本人雑穀肥料同業組合・三井物産会社・三菱商事会社など12団体の代表が集合し、各方面の排日状況や意見交換、情勢検討や対策を会議したことをきっかけに誕生した団体であった。毎週金曜日に会議を開催したことが、団体名の由来となっている。

同会にはその後、上海業業組合・上海弁護士会・上海日本海産物商組合・満鉄上海事務所・日系銀行団などの加盟がみられ、かなり広範囲の日本側企業・団体がこれに関与したことを物語っている。周知の通り、上海日本人社会においては、上海日本人実業協会、上海日本商業会議所、上海日本商工会議所と、歴代の商工団体が幾つかの雑誌を刊行しているが、排日問題を主軸に長期間にわたって刊行された印刷物として、このパンフレットは注目されるべき史料といえるだろう。

このパンフレットは、大きく分けて4回、表紙に変化が見られる。すなわち、第一号の場合、表紙中央部に「暴戾なる上海排日貨の実情」と記され、右下部分に「上海日本商工会議所内金曜会」と発行元が書かれていた。

これが第二号以降、表紙左上に「上海排日貨実情」という文言が共通して記されるようになり、中央部には各パンフレットの内容に即した表題が書かれた。例えば第二号の場合「猖獗を極むる

排日貨運動」，第八号では「排日貨運動と上海貿易」，第二十六号は「小幡氏接受拒絶に関する支那側の主張と宣言」といった具合である。そして，この表題の右側部分に，さらに詳細な目次が記入されている。さらに，「上海日本商工会議所内金曜会」という発行元は，裏表紙へと移動した。

ついで第二十七号から二十九号まで，表紙右上部分の表題が「上海における反日排日貨の実情報告」とされ，各号の中央部には「金曜会パンフレット」と記されるようになった。いうまでもなく，これが雑誌名称の由来となっている。

第三十号以降は，表紙右上の表題がなくなり，中央部に「金曜会パンフレット」の記載，及び号数と目次が書かれるだけとなった。この様式は，第二百二十五号まで継続している。

内容的には，おそらく七・七事変（1937年）を挟んで，大きく二つの時期に区分することが可能であろう。最後にこの問題について簡単に述べたい。

前期においては，次のような内容を中心としていた。

1. 上海を中心とした，各地の排日事情の動向。中央政府・地方政府次元での排日政策と具体的な行動，民間団体による組織や活動，各種排日事件を含んでいる。

2. 上海を中心とした，全国各地における主要新聞で報道された対日世論。第二十九号以降，基本的には毎号「排日宣伝一束」という欄が設けられ，各紙上の排日的な文章や各界要人による排日的言動が紹介された。第三十四号以降は「支那対日論調」，後に「中国対日論調」という名称に変更しているが，こうした作業は継続して進められている。

3. 上海を中心とした，具体的な排日活動について。日本資本が貿易・商業・海運・工業などでどの程度の損失を受けたのか，概要が記録されている。

4. 日本の対中国，とりわけ対上海輸出状況について。基本的には毎号，「日本商品上海輸入状況」という報告が行われている。

5. 国民政府の政治・経済政策（たとえば税制改革や幣制改革，原産国標記条例，さらに領事裁判権の撤廃など）の制定状況や実施状況に対する追跡報道，評論，批判などが掲載されている。

6. 上海を中心とした，各方面の経済状況について。各年度の上海における主要商品輸入状況や上海工業の現状・動向などについて報道されている。

これが後期になると，上海を中心とする各種経済状況に関する案内が中心となっていく。これは恐らく，上海・北京・天津・青島・南京などの，いわゆる経済的な先進地域が，順次日本による占領下におかれたことと，密接に関連した変化であろう。派手で目立った排日行動がしだいに困難になったために，前期に数多くみられた反日に関する報道が減少した，当然の結果である。

いずれにせよ，この史料を丹念に追跡することによって，1930年代における中国側の民族運動を，日本側がどのように認識し，いかに対応しようとしていたのか，具体的な素材を多数あつめることが可能となるであろう。以下，総目次を掲載し，大方の参考として提供したい。

なお，この作業においては，原文を尊重してカードを作成している。よって，明らかに誤字と思われる場合でも，原則的に本文のままとした。遺漏なども多いかと思うが，利用者各位による

ご助言を期待したいと思う。

\* \* \*

第一号 1929年1月10日

今次排日貨の特徴とその影響	1
排日貨に対する外支人の批評	7
反日会の組織及び行動	
上海反日会の内情	13
経済絶交計画	14
反日運動及び宣伝	18
救国基金会	20
経済絶交計画に関する批判	21
反日会の邦商日貨抑留被害調	25

第二号 1929年1月20日

暴動化せんとする反日運動	1
反日会の民衆煽動の実情	2
排日貨による日本品の減退と外国品の進出	4
排日貨以後の各方面事情	9
商品	9
各種工業	15
海運業	22
銀行	26
排日貨に因る滞貨	27

第三号 1929年1月31日

野蛮極まる反日会の私刑（糖商龔芳来事件）	1
反日会の宣伝と運動に関する一般方略	2
全国反日会第四次執行委員会	2
南京反日会宣伝工作計画	7
尖鋭化された排日貨運動	13
反日会の邦人所有品掠奪尚ほ熄まず	16
金星洋行硝石被害	16
救国基金を狙ふ政商と指導者	17
細紗工廠・国貨銀行創立	18
芳澤公使の来支と反日運動	19

第四号 1929年2月10日

邦人の商品又々不法抑留さる	1
日本綿花会社・江商会社被害	2
日支交渉に関する新聞論調	3
日支関税協商に関する外字紙の批評	5
反日会の差押へた日本商品(二)	7

第五号 1929年2月20日

日支交渉と反日運動の張弛	1
排日貨を煽る支那の逆宣伝	5
反日会の暴状いよいよ募る	11
東洋綿花会社・吉田号・江商その他被害事件	11
日貨排斥に因る支那側の損害	13
排日貨により邦商の蒙れる損害	17
加工綿布	17
砂糖	22
滞貨依然として山積す	25

第六号 1929年2月28日

排日貨に籍口する掠奪行動	1
ジャーデン・マゼソン会社被害	2
第二次全国反日大会開催さる	5
救国基金の争奪戦	10
反日会の組織と細胞	11
極端なる反日宣伝	17
培はれつつある支那民衆の反日感	20
反日教育大綱	21
反日常識試験	24
反日会の差押へた日本商品(三)	28

第七号 1929年3月10日

第二次全国反日大会	1
大会の経過	2
決議	7
雑俎	14
共産党と反日運動との関係	17
頻々たる日本品の掠奪	20
邦人生魚掠奪事件	21

日華紡績会社被害	21
伊藤洋行・金星洋行被害事件	22

## 第八号 1929年3月20日

日貨の糾察依然として猖獗	1
排貨のため変調となった上海貿易	5
英国綿布の驚くべき市場進出	8
惨憺たる日本産海産物	14
反日運動の目標遷移す	18

## 附録第一号 1929年3月25日

上海共同租界臨時法院の成績	
盛宣懷遺産没収事件	1
新々公司事件	6
司法権に対する不当干渉の実例	9

## 第九号 1929年4月5日

済南事件解決と上海の市場	1
反日会の改名	3
済案解決後の支那紙の論調	4
本邦主要商品上海輸入状況(一)	7

## 第十号 1929年4月15日

国民政府に反日取締の誠意ありや	1
済南事件解決後の反日工作	3
国民救国会の組織と目的	6
国民救国会組織条例	6
国民救国会の組織	10
国民救国会宣言	11
救国会通関業者を圧迫す	13
市党部卒先して反日を提唱	15

## 第十一号 1929年4月21日

誤り伝えられた排日貨終熄の声	1
反日取締に関する誠意と実力如何	4
保障人權令	6
国民救国会執行委員会	7
国民救国会の反日運動	14

本邦主要商品上海輸入状況(二)	19
-----------------	----

第十二号 1929年 5月10日

長江各地の日貨排斥猖獗を極む	1
最近上海の本邦商品市況	5
盗んだ品物の預り賃を要求	13
日華紡績会社被害	15
東洋綿花会社被害	16
済案解決後反日宣伝尚ほ熾烈	19
救国会と上海総商会の抗争	25

第十三号 1929年 5月16日

この仇日感情を如何に見るか	1
五三・五九当日の各方面仇日運動	3
国恥記念日の反日講演	9
反日宣伝一束	25

第十四号 1929年 5月30日

条約交渉前、まづ反日取締を実行せしめよ	1
日貨糾察尚ほ熄まず	3
上海	3
南京	4
九江	5
蕪湖	6
日本品を使用せば党から除名	7
本邦主要商品上海輸入状況(五)	13

第十五号 1929年 6月10日

日貨排斥再び勃発せむ	1
全国反日会の改名と改組	4
廢除不平等条約促進会成立	8
廢約促進会の組織大綱	10
廢約促進会の積極運動	19
依然たる反日団体の跳梁	20
掠奪品の棚下し	21
緯通紗廠六万弗を取らる	22
常州糖商被害	23
寧波・楊州・無錫・蕪湖の暴状	25

不平等条約撤廃につき支那はいかに主張するか	27
-----------------------	----

## 第十六号 1929年6月30日

統計に現れた排日貨の打撃	1
一九二八年度全支日本貿易は増加	1
日本貿易額増加の理由	3
排貨一個年間また壺千万圓増加	4
増加は満州方面の激増に因る	6
数字に囚はれ排貨打撃を軽視する勿れ	7
航運から見た排貨の打撃	9
日本上海線の減貨	9
長江・南北沿岸線の減貨	11
滞貨の激増と荷捌の不良	13
倉庫に死蔵された大宗輸出品	16
本邦主要商品上海輸入状況(六)	18

## 第十七号 1929年7月15日

国民党部の責任を問へ	1
各地反日排貨一束	4
最近の上海邦品市況	9
本邦主要商品上海輸入状況(七)	17

## 第十八号 1929年7月25日

不誠意を暴露した反日取締	1
不平等条約撤廃につき支那は如何に主張するか	5

## 第十九号 1929年8月5日

露支紛争のため反日排貨は一時的終熄	1
航運から見た排貨停止	5
日本上海	6
長江・南北沿岸線	6
東支鉄道問題を種に日本を中傷す	15
不平等条約撤廃につき支那は如何に主張するか	23

## 第二十号 1929年8月10日

排貨暫停後の邦品市況頓に活況	1
排貨暫停後の上海邦品市況	4
反日団体の醜状暴露さる	11

上海救国会の救国基金醜聞	11
閩行商人団体の暴露戦術	12
安慶反日会訴へらる	14
南京の木籠拘禁, 禁止さる	14
不平等条約撤廃につき支那は如何に主張するか	15

## 第二十一号 1929年9月1日

国民政府排日貨を密令す	1
国民政府排日貨密令の内容	4
各地商人団体に圧迫加はる	10
排日貨再発説に脅かさる々邦品市況	15

## 附録第二号 1929年9月10日

支那領事裁判権撤廃の準備如何	
法令の制定	1
裁判所の設置	6
司法官の養成	8

## 第二十二号 1929年9月30日

七・八月邦品輸入状況	1
本邦主要商品上海輸入状況(八)	5

## 第二十三号 1929年10月15日

条約交渉と反日運動	
依然として熄まぬ反日排貨	1
所謂愛国団体の総決算	6
救国会幹部続々訴追さる	6
費途不明の救国基金	7
没収日貨競売さる	7
本邦主要商品上海輸入状況	9

## 第二十四号 1929年11月5日

日支条約交渉に関する支那の論調	1
通商条約改訂の要旨（王正廷）	2
いはゆる原則承認（新聞報）	3
条約改訂に関する日本の態度（民国日報）	4
不侵犯条約締結の先決問題（宓如卓）	5
満蒙共同開発論（申報）	10

佐分利公使の所説に対する批判	12
本邦主要商品上海輸入状況(九)	18
第二十五号 1929年12月5日	
佐分利公使の逝去と条約交渉	1
日支交渉は一頓挫（王正廷）	1
唯一の同情者を喪つた（張群）	2
林奉天総領事は忌避する（龔德柏）	3
支那の同情者（ノース・チャイナ・デーリ・ニュース）	5
対支政策変更を免れず（申報）	6
条約交渉の全途悲観（時事新報）	7
本邦主要商品上海輸入状況(十)	8
第二十六号 1929年12月25日	
小幡氏アグレマン拒否と支那例の主張	1
本邦主要商品上海輸入状況(十一)	15
第二十七号 1930年1月10日	
領事裁判権の撤廃声明さる	1
擁護されざる在留邦人の權益	6
臨時法院の不当処置	6
邦人権利擁護の途断たる	7
実例の一二	8
商取引上に及ぼす悪影響	9
邦人は自発的に会審権の利益を抛棄	10
功を急ぐ国民政府の立法事業	12
第二十八号 1930年1月25日	
駐支代理公使と日支条約交渉	1
長沙の排日貨緩和さる	6
国定新税則は当分延期か	8
不当なる輸入税の金単位制	11
本邦主要商品上海輸入状況(十三)	14
第二十九号 1930年2月12日	
条約交渉と支那側の論調	1
臨時法院改組協定成る	5
会審権は完全に放棄	5

日本の態度如何	6
反日宣伝一束(二)	10
朝鮮独立運動を反日に利用	15
第三十号 1930年2月28日	
日本総選挙と支那の輿論	1
臨時法院改組協定全文	7
反日宣伝一束(三)	14
第三十一号 1930年3月10日	
一九二九年度支那輸出入貿易の概況（推定）	1
全支那の輸出入貿易	1
日支両国の貿易関係	9
上海市場における主要商品の消長	13
第三十二号 1930年3月28日	
日支新関税協定成立す	1
反日宣伝一束(四)	6
第三十三号 1930年4月10日	
法権問題交渉開始さる	1
反日宣伝一束(五)	7
第三十四号 1930年5月5日	
日支交渉と反日宣伝	1
恩を仇にする支那の指導階級	5
上海工部局参事会員問題	5
反日宣伝一束(六)	9
第三十五号 1930年5月25日	
日支関税協定正文	1
第一附属書	3
第二附属書	8
第三附属書	9
第四附属書	11
関税協定に関する支那側の批評	15
内容に就ての是非論	15
手続不備と借款協定に関し警告	16

関税協定を足場とする支那の新計画	19
反日宣伝一束(六)	21

## 第三十六号 1930年6月10日

租界回収を目標	1
日本租界回収委員会成立	2
上海エクステンション区域回収	3
共同租界教育権の回収	3
反日宣伝一束(七)	5
銀価惨落と上海市況	9
本邦主要商品上海輸入状況(十四)	12

## 第三十七号 1930年6月29日

日本製品に対する不当課税と差別待遇	1
杭州附近の「特税」	2
厘金除けの「運単」	2
国有鉄道運賃の差別待遇	3
在留邦人の領事裁判権脅かさる	5
外国商社は支那で登記の要ありや	8
三井物産会社訴訟事件に絡る怪事	9
支那側の主張要旨	11
党化された商業団体「上海市商会」成立す	13
決議に国権回収を高調	16

## 第三十八号 1930年7月11日

外国法人登記問題	1
国民政府、外商註冊手續細則を發布	1
三井事件の経過と法院の見解	2
蹂躪された日本の条約上の権益	4
上海万国商業会議所起つ	5
厘金撤廃大綱案発表さる	10
国内通過税撤廃の順序	12
特種消費税徴収の原則	13
特種消費税の種類	14
結局は朝三暮四のみ	16
土地法發布せらる	17
平均地権・不労所得・自然増価などの新機軸	18
本邦主要商品上海輸入状況(十五)	

## 第三十九号 1930年7月25日

駐支公使新任説に対する支那の態度	1
有田は小幡よりは可  民国日報	3
有田は全然不承認  中央日報	4
重視すべき駐支公使の新任	7
外国法人登記問題	8
同一事件類々として発生	9
支那国貨提唱運動の一転機	12
経済的根拠を持つ国貨運動	12
国貨の強制使用	13
各当業者の運動熾烈	14
奇抜な西装税徴収建議	15
国産大商場の開設	16
保護関税及び差別待遇を要望	16
本邦主要商品上海輸入統計(十六)	17

## 第四十号 1930年8月8日

外国法人登記問題	1
原告三井側，便宜上名義を変更	2
領事裁判権の不存在を三井自ら承認すと批評さる	4
便宜的手段の可否は別問題	5
根本問題は未だ解決せず	5
厘金廃止とその抵補問題	6
各省厘金収入の概況	8
各省の収入減の状態	10
反日宣伝を黙過する勿れ	11
反日宣伝一束(七)	13

## 第四十一号 1930年8月23日

暴露されたる支那の現実を見よ	1
長沙事変の残虐	1
封建軍閥の争覇	1
餓民の衣糧を奪って私兵を養ふ	2
土匪及び共匪の跳梁跋扈	2
国民政府の苛斂誅求	2
中央政府の威令の及ぶところ長江一帯のみ	3
斯くても尚ほ国権回収を叫ぶや	4

日本の対支交渉は和平統一まで見合せ	5
外国法人登記問題	6
原告とも問題の焦点を避けて和解に熱中	7
根本的解決を計れ	8
長沙事変の賠償責任回避か	10

## 第四十二号 1930年9月17日

厘金廃止は延期し、新税則は速行	1
外国法人登記問題	4
類似事件の一二	4
飛沫で迷惑する他の商社	5
日本側の弱腰を狙ふ奸商	6
支那の対日論調(一)	7
変態的な中日文化事業 時事新報	7
奇怪な日華実業協会の言動 同上	10
本邦主要商品上海輸入統計(十六)	15

## 第四十三号 1930年9月26日

一九二九年度支那対外貿易概況（海関報告）	1
対外貿易一斑	1
主要輸出入品の消長	3
各海関別輸出入状況	6
各海関収入の概況	8
各国別貿易の概況	9
各国対支貿易の割合及順位	13
英米と領事裁判権	
ランプソン公使の対支交渉	15
米国の領事裁判権	16
支那の対日論調(二)	18
中日電信会議に望む 時事新報	18
満州の日本郵便局を撤廃せよ 民国日報	21

## 第四十四号 1930年10月11日

厘金廃止一月まで延期さる	1
支那税制改革意見書 ケメラール委員会	3
課税種目の減少を計れ	5
各種税目の改廃細説	6
課税の公平を計れ	6

財務行政組織の改善	11
-----------	----

第四十五号 1930年10月24日

法権撤廃と支那の現実	1
英国宣教師虐殺事件	2
斯くて結局に南轅北行のみ	3
醜怪なる旧反日会の紛擾	4
元反日会主席陳徳徴監禁さる	4
救国基金の費途に疑獄	5
支那の対日論調(三)	7
日本拳匪賠償金返還 時事新報	7
本邦主要商品上海輸入統計(十七)	11

第四十六号 1930年11月16日

全国商工会議開かる	1
中国商工政策を確立	1
議案と討議	4
会議の収穫と宣言	8
無警察状態の支那内地	15
日本人攫ひ事件起る	16
長江における邦船不法射撃の実例	16
中国の封日論調(四)	20
日本外交官の大移動評 時事新報	20
中日文化協定を廃止せよ 中央日報	22
間島事件は日本の責任 申報	24
偉なるかな台湾生番の反乱 民国日報	25
生番反乱は民族自決 申報	26
本邦主要商品上海輸入統計(十七)	28

第四十七号 1930年11月28日

支那鉄道の差別待遇	1
通商公平・内外品同一待遇の原則を無視	1
明らかに条約に違反	2
支那鉄道の運賃等級	2
滬寧・膠濟両鉄道の実例	4
差別待遇を受くる各品目	6
断乎たる処置を探れ	8
中国と英米の接近	10

ラインバーガー氏銀借款運動	10
ビットマン氏国際銀プール設置運動	11
英米を背景とする独逸の東北鉄道経営	12
英国と支那との接近	13
支那の態度	14

## 第四十八号 1930年12月12日

漢口日本租界の回収	1
真剣な国民政府の態度を重視せよ	2
租界返還要求の理論的根拠	3
支那の現在は返還に適当なりや	3
漢口租界と長江における外国艦航行権	4
漢口租界の重要性	5
米国の対支銀借款運動	7
新たに起った五億オンス借款運動	7
五億オンス借款の内容	8
支那側の反響	9
他の借款運動との関係	10
米国は政治的にも財政的にも有利となる	11
中国の対日論調(十)	14
いはゆる満蒙新政策 時事新報	14
漢口日本租界を回収せよ 時事新報	15
本邦主要商品上海輸入統計(十八)	18

## 第四十九号 1930年12月26日

満蒙問題と支那の態度	1
起るへくて起った満蒙問題	1
火元は日本の通信	2
理由にならぬ支那の理由	2
日本と満州	3
支那側の主張	5
新国定税則の実施と厘金に抵補される新税	12
近ごろの反日宣伝	15
本邦主要商品上海輸入統計(十九)	19

## 第五十号 1931年1月10日

民国十九年の支那	1
統一税と治外法権	5

新輸入税則実施さる	8
第五十一号 1931年1月19日	
国権回収よりもまづ飢民救済	1
またまた持ち上った対支銀借款運動	11
一九三〇年度中華民国各海関収入	16
主要商品上海輸入状況	18
第五十二号 1931年2月10日	
新税法と在支邦人	1
厘金廃止の実績如何	3
対支大借款はどうなる	6
更にまた一つ対支借款	6
その後の各借款の成行	8
対支借款の正体	11
支那側の態度及び意響	13
主要商品上海輸入統計	44
第五十三号 1931年2月27日	
米支銀借款問題	1
ヒットマン建議案と国際会議招請案	2
その後の支那側の動きと賛否の対立	5
賛否両論	9
一九三〇年上海主要商品輸入の概況	15
第五十四号 1931年3月10日	
列国の対支経済協同	1
支那の明暗両方面を見よ	1
経済建設の進歩	3
実業計画と列強の協助	3
列強対支政策の変化	6
対支借款問題	8
胡漢民の辞職と米支銀借款	8
国際聯盟借款説職んとなる	9
外資利用研究会生る	10
第五十五号 1931年3月27日	
在留邦人の法権交渉観	1

險悪化しゆく満蒙問題	6
中国対日論調	10
日本の在満特殊利益否認 吳鉄城	10
中日法権交渉開始さる 時事新報	16

## 第五十六号 1931年4月14日

治外法権撤廃の危険	1
特税の徴収中止さる	5
中国の対日論調(七)	9
領事裁判権を抛棄せよ 唐紹儀	9
日支経済提携の大障害 王暁頼	11

## 第五十七号 1931年4月24日

営業税外人賦課問題	1
蹂躪された商標問題	4
中国の対日論調(九)	8
上海市営業税条例草案	13

## 第五十八号 1931年5月10日

法権交渉停頓す	1
英米は最後の一線まで譲歩	2
日本は独自の立場	3
交渉は打切りにあらず	4
在華外人管轄実施条例	5
実業建設六個年計画	8
中国の対日論調(九)	12

## 第五十九号 1931年5月21日

国民会議の開催	1
外人工場を圧迫	4
中国の対日論調(十) (満蒙における日本の侵略)	7

## 第六十号 1931年6月15日

満蒙特殊権益	1
重税また重税	4
主要商品上海輸入統計	9

第六十一号 1931年 6月27日

謬れる支那観を排す	1
偏狭なる観察	3
歪曲せられた認識	4
満蒙と不平等条約	5
見縊られたる日本	8
中国の対日論調	
東三省を奪回せよ 陳彬龢	13

第六十二号 1931年 7月17日

上海公共租界とフィータム報告	1
破産と赤匪に悩める諸省	9
中国の対日論調	12

第六十三号 1931年 7月24日

万宝山事件の影響	1
中国の対日論調(十三)	8
1. 東北の危機 民国日報	
2. 吾等は何を以て自救せん 民国日報	
3. 反日運動の再発 民国日報	
4. 国民の自発的排日運動 民国日報	
5. 対日経済絶交 中央日報	

第六十四号 1931年 8月12日

反日援僑会の暴状	1
外紙の評論	11
中国の対日論調(十四)	19
1. 反日・援僑・救国 南京中央日報	
2. 租界は排日貨に干渉す 時事新報	
反日会の広告及日貨押収証	23

第六十五号 1931年 8月28日

反日援僑会の非違横暴	1
反日援僑会の組織及経過	9
外紙の評論	14
中国の対日論調(十五)	18

## 第六十六号 1931年9月4日

反日会の改組と捲土重来	1
実業基金徴収及保管通則	3
其後の日貨抑留及市商会の組立	6
ソルバン事件と法権問題	8
日貨排斥に対する外紙の評論	11
中国の対日論調(一六)	14
主要商品上海輸入統計(其廿五)	15

## 第六十七号 1931年9月11日

反日会の全国的蔓延	1
中国の対日論調(一七)	12
日本皇帝の水災救助	12
日露両国を警戒せよ	13
対日外交の正軌	14
朝鮮事件に対する抗議	15
外紙の対日論調	16
党部の情弊と排外教育	16

## 第六十八号 1931年9月25日

排貨運動の深刻化	1
五ヶ年排貨計画の経過	6
国民政府鉄道部の反日会公認	9
排日演説の適例	12
中国の対日論調(一八)	15
満洲事変後の中国対日論調	19

## 第六十九号 1931年10月8日

満洲事変と上海商工会議所決議	1
日本を仇敵視する支那官民の暴言	6
国際聯盟に対する支那の論調	9
中国の対日論調(一九)	11
外紙の対時局評論	19

## 第七十号 1931年10月19日

対日経済絶交運動の即時禁止	1
各界煽動は純然たる対日仇敵行為	3
抗日煽動の悪虐手段	20

新聞に現はれたる標題	22
街頭の宣伝標語	24
抗日救国の官製標語	28
仇日抗日戦争の歌	31
抗日を乱用する新聞広告	37
第七十一号 1931年11月6日	
須く其の源を塞げ	1
排貨運動か対敵運動か	5
殆と暴動化せる抗日運動	7
市党部支配権を握る	7
その後の抗日工作	8
中国の対日論調(二十)	13
日本の所謂特殊權益	13
主要商品上海輸入統計(二十六)	17
第七十二号 1931年11月27日	
支那の主張は欺瞞と詐謀のみ	1
抗日経済絶交の経過	4
抗日救国会	4
上海市商会経済絶交委員会	11
抗日会と市商会の対立	14
対存日貨処置辦法	15
学界抗日救国運動	18
悪辣を極むる抗日仇日宣伝文書	20
中国の対日論調(二二)	28
第七十三号 1931年12月10日	
支那司法官憲抗日暴力団を庇護す	1
抗日経済絶交の経過	5
馬占山援助資金募集と黒軍援助義勇軍	6
対日宣戦と出兵一失地の回収	8
封存日貨の発売問題	10
抗日救国団体の暴状	12
奇怪なる悪宣伝	19
支那の対日論調	29

## 第七十四号 1931年12月？日

反日と反国民政府	1
抗日会員の暴行事件	6
抗日経済絶交経過	8
全支日本人民留民大会	15
支那の対日論調	19

## 第七十五号 1931年12月？日

断末魔の蔣政権	1
支那司法官憲の暴状	5
暴動化した学生運動	8
抗日経済絶交の経過	13
支那の対日論調	23
抑留日貨表	25

## 第七十六号 1932年1月10日

国難か党難か	1
政論に累される上海市商工業界	4
抗日経済絶交の経過	12
支那人所有日貨抑留表	20

## 第七十七号 1932年1月22日

抗日経済絶交による日本商権の危機	1
重視すべき長江経済地盤の動揺	1
邦人の蒙れる打撃一般	4
各種商品の消長	9
中国の対日論調(二十二)	22
主要商品上海輸入統計	28

## 第七十八号 1932年1月28日

観察と推論を繚れる抗日排貨終熄説	1
抗日経済絶交の経過	6
中国の対日論調(二十三)	16

## 第七十九号 1932年7月15日

建設の秋臻る！抗日排貨の終焉を促進せよ	1
抗日貨から国貨提唱へ	5
余燼ながらまだ油断出来ぬ排日貨運動の種々相	9

主要商品上海輸入統計（昭和七年五月中）	18
---------------------	----

第八十号 1932年 7 月29日

事変後現在に至る我商権回復の歩み	1
本年上半期に於ける全支及上海の対外貿易	4
船舶から観た邦品の輸入現状	6
邦貨輸入の実数と荷捌状態を物語る倉庫	9
各種主要邦品の取引及荷動概況	19
紡績以外の各種工場現勢	29
市商会の排日貨公告と脅迫団の横行及日貨提唱論	31

第八十一号 1932年 8 月19日

関税減収の時疫には排日貨運動弾圧が良薬	1
(一)関税収入不足と宋財政部長の声明	5
(二)爆弾とボイコット	8
市商会の排日煽動。脅迫団横行して華商戦慄す	11

第八十二号 1932年 9 月 2 日

排日貨運動取締の法理的及道德上の責任	1
旋風の種を蒔く（字林西報社説）	8
排日空気漸く險悪。市商会活躍暴力団横行	11
暴力団跳梁北四川路に及ぶ	11
市商会の排日貨運動愈よ熾烈	16
排日漫画街頭に現はれ運送中の日貨抑留さる	18
血魂除奸団各地に蔓延す	19
注視すべき特区法院の爆弾事件判決	22
南京抗日会が日貨取扱者に死刑宣告	23
暴行と強要に脅えた各同業公会	24

第八十三号 1932年 9 月16日

上海市政府排日取締令を公布	1
呉市長の市民に告ぐるの書	3
市政府排日取締令と内外の輿論	5
排日運動の推移と展開し行く諸事相	11
暴力団の活躍尚熄まず	11
同業公会対日経済封鎖を宣言	18
排日場裡に於ける華商雜貨工場の現況	27
上海及全支の輸出入概況	30

主要商品上海輸入統計（七月分）	33
-----------------	----

第八十四号 1932年9月30日

我満洲国承認前後の排日空気 支那新聞論調	1
上海市商会の排日運動 手厳しく非難さる（上海英国商議月報の正論）	20

第八十五号 1932年10月15日

国民政府が満洲海関封鎖を宣言	1
暴力団又復た跳梁（華街より租界内が旺ん）	7
爆弾犯人恠蕙芳は僅かに傷害罪で徒刑三ヶ月	13
排日取締令公布後の上海邦人商業界概況（加工綿布の商盛説は大きな誤報）	16
聯盟調査団の報告と上海主要新聞の論調	22

第八十六号 1932年10月25日

国貨提唱運動とダムピング税問題	1
支那炭提唱邦品セメント排斥（国産奨励と排日に交響樂）	6
除奸団の活躍尚衰へず	8
本年前半に於ける各国の対支輸出貿易	15
広東西北兩派が聯盟を排撃（国論不統一暴露）	21
上海港主要輸入品統計（昭和七年八月中）	25

第八十七号 1932年11月8日

除奸団の徹底的取締を租界当局に要望す	1
暴力団の活躍又復旺ん（十月下半の爆弾脅迫事件概報）	11
擁護国聯盟約委員会が対日経絶を再開	15
邦炭の対支輸出と支那新聞のダムピング宣伝	19
注意すべき上海々関の新告示	23
上海港主要輸入品統計（昭和七年九月中）	26

第八十八号 1932年11月21日

日貨輸入急増の逆宣伝	1
最近に於ける輸入邦品と邦人工場製品商勢概況	8
除奸団の活躍衰へず（まだ油断は出来ない）	17
抗日会の暴圧に対し各地の商人猛然蹶起す	20
救国聯合会大会の対日経済絶交決議	25
重要海関告示	27

## 第八十九号 1932年12月9日

聯盟理事会開催を機会に民衆の対日感情尖鋭化す	1
除奸団依然蠢動す（工部局が徹底的取締を声明）	11
南支北支の排日風潮猛烈	15
日支関税協定満了と輸入税率引上げ問題	17
市社会局調査の国貨市場と海外貿易	20

## 第九十号 1933年1月31日

日支経済関係の前途如何	1
昨年中の日支貿易概況	6
除奸団と其反動及弾圧	13
国聯の形勢と山海関事件で抗日熱再燃	21
支那に近代国家の資格ありや	35
財政部が関税法を起草	38
愈よ公布された輸入貨物原産国標記条例	39
重要海関告示	40
主要商品上海輸入統計（昭和七年十，十一月中）	44

## 第九十一号 1933年2月28日

旧正後我輸入商品（期待外れと其一般原因）	1
排日の内面的転化（上海事変記念日後の情勢）	3
去年の全支対外貿易	13
日支関税互惠協定満了と輸入税率標準問題	21
輸入貨物原産国標記条例（原産国支那名リスト）	24
疑問視される廢兩改元と新貨幣鑄造	28
広東排日団のリンチ事件	32
重要海関告示	34

## 第九十二号 1933年3月18日

熱河問題一段落と今後の当地排日予想	1
熱河事件に絡まる各地の排日毎日彙集	4
上海市政府の新聞検閲と武漢司令部の大弾圧	12
日支関税協定の続否如何	13
銀本位幣鑄造条例及び換算率計算法	16
銀元本位実施と海関及各当業者・交易所	21
重要海関告示	23

## 第九十三号 1933年3月28日

三月以後の当地排日事情	1
漢口の排日激化す	9
邦貨の輸入増加せず（支那新聞記事の誇大報道）	15
租界工場検査問題	17
外貨傾銷委員会とダムピング税施行細則	19

## 第九十四号 1933年4月21日

陳友仁氏の暴論（米国の支那協助を力説）	1
上海及各地の排日概況	7
原産国標記条例の修改運動各方面に熾烈	15
租界内工場検査問題は支那側と工部局と対立	20
財政部突如廢兩を宣示	24

## 第九十五号 1933年5月4日

当地の排日また悪化か	1
排日激化に因る漢口邦商打撃の実況	11
支・印・米三国同盟の対日経済断行を力説	16
工場検査問題に仏租界も共同租界と同一態度	20

## 第九十六号 1933年5月18日

注目すべき長江通商章程の改定	1
日支関税協定満期後当分現行輸入税率襲用	4
着荷々捌在庫から観た邦貨の輸入現状	6
工場検査権を領事団が容認	11
日貨検査愈よ励行され爆弾脅迫も各地に続出	14

## 第九十七号 1933年5月31日

新関税率突如実施，時局を悪化する変形の日貨排斥（公正なる字林報の正論）	1
原産国標記条例補修さる（原産国文字で標記を容認）	6
仏租界警察が爆弾犯人捕縛に懸賞（検貨警告封存脅迫尚旺ん）	10

## 第九十八号 1933年6月17日

輸入禁止的新関税則	1
新関税率に対する英字新聞の論調	15
五千万金弗の米支棉麦大借款	18

第九十九号 1933年6月29日

停戦協定と関税引上後の当地商勢概観（排日緩和は未だ実体化せず）	1
排日工作依然行はる	9
血魂除奸団の凶徒に二ケ年間の執行猶予（又しても奇怪な特区法院の判決）	12
原産国標記条例補充辦法は依然として日本に不利（英語使用を重て要望す）	15
米支五千万金弗棉麦借款の償還及担保条件（立法院會議で管理委員会設立）	19

第百号 1933年7月17日

支那を救ふの途は政治及經濟機構の統制（監察委員会廿五名連署の建議案）	1
排日緩和或は逆転か（抗日総機關組織決議，爆彈脅迫檢貨押収続出）	8
輸入新関税則に対する英国商議月報所論の概要	13
租界工場検査協定案	17

第百一号 1933年7月31日

領事送状規則の変改と曖昧なる海関鑑定課告示	1
当地支那工場の現状	7
排日熱昂進懸念濃厚	14

第百二号 1933年8月20日

例国の対支新借款と国際聯盟の技術援助	1
排日状勢樂觀を許さず	15

第百三号 1933年9月2日

邦貨の輸入依然振はず	1
上海及各地の排日状勢	6
当地邦人工場の概況	9
領事送状規則変改の実施期日及供託金払戻決定	11

第百四号 1933年9月12日

宋氏の回滬と棉麦借款	1
各地の排日更に衰へず	7
上半年の全支貿易不振（関税引上輸入不振の原因）	12

第百五号 1933年9月25日

最近の排日傾向	1
邦貨及我工場製品の近況	8

第百六号 1933年10月18日	
秋作農産収穫と地方購買力	1
まだ安心出来ぬ排日状勢	13
廿二年関税庫券案行政院会議を通過	16
全国経済委員会正式成立	20
第百七号 1933年11月1日	
輸出入関税率修正と傾銷税実施及密輸防止	1
日貨没収，排日示威，対日暴行未だ熄まず	12
第百八号 1933年11月15日	
原産国標記条例の無期延期を要望す	1
宋財政部長の辞職と国民政府の財政窮乏	5
対日政策の好転も排日貨停止も樂觀出来ず	9
本年度上半期の農産及工業概況（実業部国際貿易局調査）	11
第百九号 1933年11月29日	
日支貿易の恢復遅し	1
各地の抗日工作続発す	6
行悩みの原産国標記条例（延期を重ねんより寧ろ廃棄せよ）	10
外人調査の日英対支投資	13
第百十号 1933年12月16日	
福建人民政府独立す（中央政權の失墜と共匪猖獗の重大性）	1
福建独立と上海の経済的影響	5
海関のメートル制実施延期を要望す	16
第百十一号 1933年12月25日	
米麦新輸入税の関収激増は期待薄	1
三種統税の引上と国民政府の収入増加	6
各地の排日貨情報	11
全支対外貿易の入超増大と華僑送金激減	14
第百十二号 1934年1月17日	
統税徴収にもメートル法採用（支那各地の新度量衡制画一現状）	1
昨年中の支那主要経済事相	5
塩税収入増加と各地の産塩数量統計	12

第百十三号 1934年1月30日	
昨年 of 海関収入と国民政府 of 収支缺損（民国廿三年関稅庫券一億元發行）	1
旧正を真近に控へた当地邦品の商勢概況	6
第百十四号 1934年2月22日	
昨年中 of 全支及上海対外貿易	1
保稅貨物再輸出規則修改	13
日貨排斥未だ根絶せず	17
第百十五号 1934年3月？日	
英本国 of 対支貿易（英国貿易者の報告に対するチャイナ・クリチークの評論）	1
対伊庚子賠款担保 of 四千四百萬元銀行借款	8
第百十六号 1934年3月15日	
一月 of 上海及全支貿易	1
旧正明け of 当地邦品市況（期待外れで一般的に閑散）	6
上海付近でまた日貨押収	13
支那商 of 破産相次ぐ	16
第百十七号 1934年3月30日	
原産国名 of 英字標記と条例細目 of 修正を飽迄要望（上海市商会 of 実施促進理由を駁す）	1
国貨運動と排日新工作（チャイナ・プレス紙 of 暴論）	7
当地華人工場 of 概況（工業薬品製造工場統設）	10
第百十八号 1934年4月21日	
棉麦借款 of 失敗と国聯対支技術合作 of 破綻（日本を度外視せる当然の結果）	1
市商会及呢絨同業会が日貨毛織物排斥に活躍	7
石油ガソリン類輸入関稅率引上	11
第百十九号 1934年4月30日	
満洲国承認を意味する地図及印刷物輸入禁止	1
一九三三年度支那經濟界概況（中国銀行総經理張公権氏の報告）	3
第百二十号 1934年5月15日	
期待される輸入関稅々々則修正	1
輸入原料製品 of 特稅徴収で国貨維持会悲鳴を揚ぐ	7
北支問題で輸入邦品 of 出鼻挫かる（最近 of 当地排日情報）	10

## 第百二十一号 1934年5月28日

ライヒマン氏報告に華人は総じて感興薄（経済建設も対支技術合作も東亜の平和確保が先決条件）	1
ライヒマン氏報告の概要（建設事業の経過と合作辦法提案）	4

## 第百二十二号 1934年6月11日

輸入税率修正気構で邦貨の当地輸入激減	1
当地排日貨の現実相（商略上の排日利用取締と愛国假冒の凶犯弾圧を特に要望）	6
中国建設銀公司（発起人定款の主要条項）	12

## 第百二十三号 1934年6月25日

邦貨の輸入商況遠からず好転か（時局に対する華人の認識更正と春作豊収及輸入税率の修正から）	1
当地の支那新聞に現はれた日支直接交渉論	8
修正国貨標準原則と国貨証明書発給条例	13

## 第百二十四号 1934年7月18日

輸入税則修正公布（税率の増減小巾で微温的、邦貨の減税幾分考慮さる）	1
新輸入税則中止を上海市商會が請願	16

## 第百二十五号 1934年7月31日

輸入新税則施行直後当地の邦貨輸入概況	1
輸入新税則の二問題（砂糖人絹据置と棉花の高率課税）	6
瞭かに条約違反の修正工業奨励法	11

## 第百二十六号 1934年8月10日

本年前半に於ける上海並全支対外貿易	1
本年度の民国総予算（国策に矛盾すと時事新報が痛論）	7
上海の華商工場総数	16

## 第百二十七号 1934年8月30日

漢口の堤工税課徴は条約及統税規則違反	1
宋慶齡女史等の対日基本作戰宣言	4
米国の銀国有令で当地の現銀夥しく流失	9
在外華人居留民総数	13

## 第百二十八号 1934年9月18日

本年度全支棉産予想	1
-----------	---

実業部五大工場開設進行の近状	13
工業奨励審査標準	17
国民政府の為替取締令	20

第二百二十九号 1934年9月30日

仲秋節直前に於ける当地の邦品商況概観	1
最近の当地工業界一般	8
英人の観た対支投資（エコノミスト誌から抄訳）	10

第三百十号 1934年10月17日

中支の道路網竣成と邦製自動車の当地進出	1
関西大風災に因る当地邦品市場の影響	7
米支通商協議会成立	11

第三百十一号 1934年10月30日

現銀の流失防止に禁止的輸出税実施	1
綿系統税近く増率か	4
事変後始めての邦品見本市開催	7
当地傭船契約未曾有の盛況	11

第三百十二号 1934年11月10日

排日の余燼もえ燻ぶる日貨取引に対する影響	1
日本の製鉄業と長江流域の鉄産	8
邦品のヴェニア板の当地輸入漸く増加	12
上海と隴海・平漢両線の水陸連絡運輸計画	15

第三百十三号 1934年11月26日

密輸出を蓄蔵で現銀の脅威彌増す（漸く関心される通貨の現状）	1
海軍予備会商と当地言論界の反響（日英同盟復活に神経を尖らす）	5
停頓中の統税増率案	14

第三百十四号 1934年12月10日

正月間近かの当地邦商主要商品概況（通貨不安と金融強硬で一般に不振）	1
近頃面倒になった輸入手続及通関検査の諸問題	9

第三百十五号 1934年12月22日

本年の全支対外貿易概況（貿易総額及入超共に減少）	1
奥地向現銀流出で華商銀行の手持漸減（当地華商銀行発行高と其準備）	8

最近の華人工業操業率と工場及工人数（邦人経営工場の概況）	11
第百三十六号 1935年1月12日	
昨年度関税総収入と同担保内外債償還額	1
支那の南洋貿易衰退（米と砂糖の輸入減少が主因）	5
注視される広東糖の移入実相（糖業合作会社の定款決定す）	9
満支通郵問題解決（通常郵便は一月十日より取扱実施）	12
第百三十七号 1935年1月28日	
不況に喘ぐ当地華商の閉店続出（旧年関にモラトリウム請願）	1
南京の商品原産地標明	5
一九三四年の上海対外貿易概況	8
第百三十八号 1935年2月11日	
実施計画中の砂糖及燐寸専売制	1
一九三四年の全支対外貿易概況	8
第百三十九号 1935年2月26日	
敵？友？日支関係の検討	1
当地華人商工業の窮状	12
第百四十号 1935年3月12日	
日支状勢轉換の明暗両相（同業公会の排日決議を解消せよ）	1
昨年度の当地日貨輸入及長江各港向輸送屯数	9
銀再輸出免税条例と金融顧問委員会	12
第百四十一号 1935年3月28日	
日支状勢の推移（各地共引続き好転か）	1
日支経済提携の考察（穆藕初）	8
一億元金融公債発行と小口貸付市場救済辦法	19
第百四十二号 1935年4月15日	
日支状勢好転で邦品の当地輸入増加（和やかな日ごしに暗影未だ去らず）	1
金融機構統制の第一歩（三銀行増資と中国銀行改組）	7
輸入税率屢次引上と輸出税及転口税の減免	10
一九三四年支那の国際収支（中国銀行調査）	13

## 第百四十三号 1935年4月27日

健全通貨政策を当地外国銀行が協助（米國産銀買値引上の脅威に対して）	1
寧波で日貨押収さる。反日救国会依然活躍（國民政府の排日取締未だ徹底せず）	6
四月に入り邦品の当地入荷愈増加（三月中の同主要輸入品別統計）	9
市場救済計画進歩（財政部の商工業救済貸付原則）	13

## 第百四十四号 1935年5月18日

輸出税は一部減免，転口税は一律撤廃（中外製品に差別待遇無し）	1
輸入税率引上間近の当地邦商主要商品概況（錢莊不安・為替変動・季節関係等で概ね閑散）	6
未だ安心できぬ各地の排日状勢	13
中央造幣廠審査委員に邦人三氏任命さる	20

## 第百四十五号 1935年5月31日

金融界に破綻続出す（天津・青島の銀行不安に次ぎ当地でも美豊・明華其他停業）	1
食糖運銷管理は専売制の前提（中外糖商一齊に反対）	4
使節昇格に関する当地支那新聞の所論（何れも不平等条約の取消を要望）	10
新輸入付加税七月一日実施（輸出税及転口税減免も同日から）	16

## 第百四十六号 1935年6月17日

公債融資二千五百万元で錢莊の危機一時救はる（金融停頓と北支時局懸念から当地の夏節市場極度に悪化する）	1
北支時局を反映して当地の不安未だ濃厚	12

## 第百四十七号 1935年6月30日

輸入附加税は実施延期（転口税の廃止準備が間に合ぬ為か）	1
紗布交易所に邦糸の上場復活（八月一日以後新甫一月限から）	3
当地の支那新聞に邦人営業広告掲載（（先ず商品以外の広告より）	5
食糖運銷管理大綱の実施見合せ方要望達成す（広東の糖業統制は不成績）	7
廿四年度民国総予算	11
北支時局に対する英人の脱線的言語（聞捨にならぬ字林報の妄論）	14

## 第百四十八号 1935年7月17日

「新生」誌の不敬記事と我海軍「サイド・カー」毀損事件	1
----------------------------	---

## 第百四十九号 1935年7月21日

夏枯と長江水災で当地の邦品市場愈よ閑散	1
本年上半期の上海対外貿易概況	9

## 第百五十号 1935年8月12日

上海雜糧公会在排日決議取消を公告	1
蕪湖の菜種營業稅（対日商取引に障害多大）	4
邦交敦睦令下に排日デモ行はる	6
本年上半期の全支対外貿易概況	8

## 第百五十一号 1935年8月28日

本年度全支棉産予想（昨年比し一割見当減収の見込）	1
リーイス・ロス卿来華と当地支那新聞の評論	9
問題視された民国保險業法	16

## 第百五十二号 1935年9月17日

九月一日から新印花稅法施行	1
仲秋季節は平穩（当地邦商筋不況乍ら稍や好調）	7

## 第百五十三号 1935年9月28日

民国海員章程實施（民国政府の善処を要望す）	1
注視すべき成業登記問題	4
満洲事変記念日と当地支那新聞の論說	7

## 第百五十四号 1935年10月12日

大阪雜貨見本市と名古屋商品展覧会	1
世上の注視を集める訪日經濟視察団	8
經濟視察団に関する支那側の論評	16

## 第百五十五号 1935年10月26日

伊エ開戦に因る当地市場の影響	1
排日減退で邦品の偽造増加す	13

## 百五十六号 1935年11月9日

幣制改革号

## 第百五十七号 1935年11月23日

日支親交を阻撓する各種の不快事続出	1
幣制改革彙報	11

## 第百五十八号 1935年12月12日

財政部の新貨幣制度説明書概要	1
----------------	---

運銀護照と私運私帯処罰辦法	8
準備管委會章程修正	10
幣制改革後の当地現状	11
邦人商店街の圓建商内実施説抬頭	13
幣制改革前後の当地物価比較表	16

第百五十九号 1935年12月22日

新商標法修正公布（商標に用ゐる文字の読音と先使用主義制限が修正の重点）	1
北支時局と当地の反響	13

臨時号 1935年12月25日

中国の幣制をめぐる国際関係	
第一節 中国幣制推移の回顧	1
第二節 新幣制の建前と弱点	4
第三節 米國銀政策と中国通貨関係	8
第四節 新幣制採用と英米国際関係	12
第五節 中国通貨の前途と国際関係	17

第百六十号 1936年1月13日

一九三五年に於ける全支及上海対外貿易概観（財政部の同年関稅収支報告）	1
國貨工廠制品鉄道運賃値下	10
当局の戒嚴と学生運動	13

第百六十一号 1936年？月？日

蔣行政院長自ら学校代表と接見	1
新幣制関係彙報	4
我軍縮會議脱退に関し支那紙時事新報の暴論	11
昨年度の全支塩稅收入	14

第百六十二号 1936年2月15日

内國債三十三種を統一公債で借換（復興公債三億四千万圓發行）	1
一九三五年度全支及上海対外貿易	10
中日貿易協會成立	29

第百六十三号 1936年2月29日

旧正明け後の当地邦商一般概況	1
全支対外貿易重要商品別統計	9
一九三五年稅務署管轄諸稅収	13

復興公債条例と統一公債借換辦法	16
印花税率修正さる	19
第百六十四号 1936年3月14日	
またまた頻発する排日デモと学生運動	1
上海日本間の電報料金引下請願	11
第百六十五号 1936年3月31日	
独逸の対支貿易躍進，昨年度から輸入は英国を凌駕	1
最近十年間の輸入関税高築過程	7
排日デモ依然旺ん，赤の色彩次第に濃厚	11
銀行手形引受所設立	16
第百六十六号 1936年4月10日	
一九三五年支那の国際収支（カン氏推定と中国銀行発表）	1
国産糖移出税引下げ（競争輸入品に脅威加はる）	8
排日・学生・赤化運動潜行的に益々活躍	11
銀集中辦法で当地在銀漸増す（三月末の三銀行発行残高）	15
第百六十七号 1936年4月28日	
胡適氏の日支関係調整観（空理謬見依然高唱さる）	1
排日・学生・赤化運動統報	6
碎米の輸入税加増（下層階級糧食への脅威）	10
駐日商務官設置（張新吾氏四月廿三日渡日，行政院通過の商務官章程）	12
第百六十八号 1936年5月9日	
砂糖及人絹の輸入税引下問題	1
政府銀行の膨脹と民間各銀行の収縮（昨年度営業状態の一端）	8
排日・学生・赤化運動（平穩無事にメーデーを経過，五月は記念日沢山で尚警戒）	13
現銀兌換無期延長	16
第百六十九号 1936年5月26日	
密輸入防止に国民政府深慮を缺く（国内問題を国際関係に誘導。北支税収損失を海関が公表）	1
排日・学生・赤化運動	15
新幣制一部改更（現銀準備率を引下げ。金及外国為替を準備率に充当）	18
二十五年民国総予算（草案）	21

## 第百七十号 1936年6月15日

独逸の輸入急増、日米両国を凌駕（雑品増加の内容が不明）	1
北支時局で抗日空気動揺（各方面の危険信号頻々）	8
運輸販売検査章程適用の輸入貨物十九種決定	18
当地金融界近事	19

## 第百七十一号 1936年6月27日

支那の経済更生は輸入税率の修正から（関税高障壁の低下は密輸入を無用とし、排日色彩の消除は日支情勢を調整せん）	1
各界救国聯合会が抗日デモ敢行（対日宣戦請願の途上北停車場を占領）	22
独逸品の買込猛烈（政府の奨励金で採算割れカヴァーか）	24

## 第百七十二号 1936年7月13日

支那に於けるわが特許権の確保を要望（これも日支情勢調整の一端）	1
当地製造の我商品に輸入税完納證提出を強要（運輸販売の不法阻止は通商の妨害）	4
米国の油類消費税実施は菜種の対日輸出に脅威	7
本年度全支棉産予想（段別急増と天候良好で大增収か）	9
民国二十五年総予算公布さる	13

## 第百七十三号 1936年7月25日

排日テロ横行し邦人の生命線危険（其美路々上で萱生氏射殺さる）	1
租界内に於ける支那工場法適用問題（共同租界内各種工場及工人数統計）	8
支那の軽工業発達で我輸出品脅威を受く（当地では陶磁器南洋では魔法瓶）	15
東京市産業局出張所と大阪府立貿易館上海分館	17

## 第百七十四号 1936年8月17日

落棉の輸出突如禁止さる（当業者及紡績・船会社の影響甚大）	1
小麦輸出禁止と輸出税新設の噂（麵粉公会の我田引水の請願）	8
中国全国々糖産銷協会（設立趣旨書中日本を敵人呼ぶ、政府監視下で漸次其機能拡大か）	12

## 第百七十五号 1936年8月？日

成都で排日団が邦人四名を殺傷す（偶発事件にあらざ事態極めて重大）	1
十月一日から所得税法施行の計画（暫行条例二十二条の要訳）	6
落棉輸出禁止は古棉輸出禁止の間違	16
中華棉業統計会の全支棉産第一次予想	19

## 第百七十六号 1936年9月14日

北海居住の中野氏虐殺さる（下手人は十九路軍便衣隊）	1
---------------------------	---

為替の値幅拡大さる（英米クロスの昂騰に対応し相場の釘付方針を緩和）	2
清算の日来る最近の排日様相（成都事件も北海事件も支那の全責任）	4

## 第百七十七号 1936年9月27日

排日テロ益々跳梁（漢口で吉岡巡查凶手に斃れ、当地海寧路で我水兵射殺さる）	1
成都事件勃発後の当地邦品市場概況（奥地豊作で購買力抬頭し、時局暗転せぬ限り商勢好望）	4
文字だけの商標登録は人名・店名・普通名詞等不許可（商標局の法文解釈極めて窮屈）	11

## 第百七十八号 1936年10月11日

時局急迫懸念で巨額の現銀積出さる（十七日間に一億一千九百萬元）	1
全国々民と日本の朝野に支那新聞呼びかく（京滬二十一紙が共同宣言）	4
本年度秋作は総じて大豊收（主要農産物の収穫予想）	10

## 第百七十九号 1936年10月26日

当地経済界の時局影響概観（商情順調、排日気分緩漫）	1
海寧路事件以後の各地排日事象一束	8
支那全国の農事機関（実業部中央農業実験所調査）	14

## 第百八十个 1936年11月15日

民国二十三年度及び其後の財政状況（孔財政部長発表の梗概）	1
邦炭及撫順炭の入荷激減（原因は内地需要の激増と関税高障壁）	25
保税倉庫章程を亜美織綢廠が活用（機製輸出品の原料輸入税免除）	29

## 第百八十一号 1936年11月30日

重視すべき当地の紡績罷業（背後関係は赤色系統と抗日分子か）	1
当地の抗日テロ熄まず、救国会の抗日戦線も展開	6
華人の南洋市場観（南洋商業視察団報告の梗概）	10
本年度棉産予想（中華棉業統計会及農業実験所報告）	14

## 第百八十二号 1936年12月8日

日独及日伊協定の当地に与へた反響	1
救国聯合会の巨頭検挙（罪名は危害民国緊急治罪法違反）	7
建倉積谷辦法と食糧調節辦法の綱要	10
驚くべき胡適氏の排日論（日本の中国侵略が世界大戦の禍端）	13

## 第百八十三号 1936年12月19日

西安事变直後の当地経済界影響	1
紙幣の発行高急増と政府銀行への預金集中（インフレ危機を醸成せざるか）	4

当地及青島の邦紡工人罷業終局	9
積荷屯数から見た本年の当地対日貿易概勢	12

第百八十四号 1937年 1月11日

西安事変前後の当地市場の変動（時局直前から昨年納会まで）	1
一九三六年度全支及上海対外貿易（前年度より輸出が急増）	4
財政部発表の昨年度関税収入	9
古及屑金属の国内輸送も許可制を実施	12

第百八十五号 1937年 1月25日

多数の薬品や染料が爆発物扱い（術語を不注意に使用せる海関公示）	1
各国対支鉄道借款と支那の鉄道建設現状	4
日支合弁の中華全国火柴聯営社成立（二月一日より正式に営業開始）	18

第百八十六号 1937年 2月10日

旧正間近かの当地経済界概況（日本の為替管理強化と物価高の影響注目さる）	1
日本航路積荷屯数と全支及上海対外貿易（昨年度と前年度の比較）	8
成薬の登記愈よ実施（わが薬業者が支那側の善処を要望）	12
中華火柴聯営社開業（華中・華北・魯豫三区の既加入五十五廠）	15
為替管理法に関する陳情書（上海日本商工会議所提出）	17

第百八十七号 1937年 2月28日

在支日本商工会議所が聯合会を当地で開催	1
整理期の当地錢莊（小錢莊は停業大錢莊は増資）	3
中華火柴聯営社の年産額と日支両廠比率（生産・運輸・販売管理施行略則）	6
最近の紙幣発行総額と外埠各地の紙幣発行高	11
一九三六年度中国農産物収穫予想（中央農業実験所発表）	14

第百八十八号 1937年 3月15日

中国農民銀行紙幣発行制限（財政部の中農紙幣発行辦法）	1
四明・中通・中実三銀行を政府が統制（新資本四百万元、官有株八割五分）	3
銀元の退蔵額推定（郵政匯業局調査）	5
人民戦線派に対抗して上海各界統一救国同盟成る	7
在華日本商工会議所聯合会（議事日程・提出議案・出席者氏名）	9

臨時号 1937年 3月

支那経済界の現状大要	
------------	--

## 第百八十九号 1937年3月30日

我経済視察団来華と支那朝野の反響	1
支那奥地の銅貨払底す（銅の海外市価暴騰が要因）	5
中支銀行の改組と孔財政部長の渡英	10
決議事項十四件を纏めて在華日本商議联合会終る	12
一九三六年の支那銀行投資	17
全支紙幣発行高と外埠の紙幣発行額	22

## 第百九十号 1937年4月13日

綿糸及煙草の統税引上通告さる（マッチその他も追て増率か）	1
一九三六年支那の国際収支（イー・カン氏推定と中国銀行発表）	14
当地邦商銀行手持銀中央銀行に引渡さる	21

## 第百九十一号 1937年4月24日

トラムバーの支那海引上げで当地傭船界頗る活況（各航路の運賃引上げと傭船料激騰）	1
四川・甘肅の旱災激烈（長江上流の荷動き杜絶す）	4
春作農産物概況（小麦・菜種・豆類は不作予想，江蘇・浙江の春蚕掃立は増加）	6
国貨聯営公司正式成立	9
特種工業保息及補助条例	11
全支紙幣発行総額と外埠の紙幣発行高（本年三月末日現在）	15

## 第百九十二号 1937年5月17日

鉄飢饉の当地に及ぼす影響（銑鉄輸入不足で屑鉄の需要旺盛）	1
茶業公司正式成立（支那の茶業統制愈よ具体化，支那茶及び日本茶の輸出統計）	5
華商紡績復興顯著（開工と新設の情報相踵ぐ）	9
本年上四半期の全支及上海対外貿易	13
政府三銀行業務益々増大	17

## 第百九十三号 1937年5月29日

独支貿易とバーター制停止	1
木材の輸入不足で製材及建築業が大打撃（福州松の入荷旺盛も空腹を充たさず）	4
昂騰の一途を辿る上海卸売物価（過去十七年来の最高記録に接近）	7
食糧調節辦法公布（八月一日から実施，暫行辦法は同日禁止）	11
兌換法幣補充辦法（兌換手續費六分給與，軍警の抑留禁止保障）	13

## 第百九十四号 1937年6月14日

最近急増した当地の労資争議	1
温溪造紙廠正式成立（輸入洋紙の勁敵出現）	8

改称増資された中国棉業公司	12
綿糸布の新統税率（六月一日から実施）	15
第二回中華実業改良家庭展覧会	17
全支紙幣発行総額と外埠の紙幣発行高	19

第百九十五号 1937年6月28日

我為替管理の再強化と対日輸出の障圧加重	1
米支桐油借款説と桐油の近況一般	5
民国二十六年度総予算の内容	12
設立準備中の華東人造絲公司（株式募集と其概則）	16
広東の幣制改革成る（毫券の法定比率は一四四，年末迄に国幣と兌換焼却）	19
上海機器具展覧会と東京商品館開設	21

第百九十六号 1937年7月10日

海南島の経済的価値と事実化せる鉄道・築港計画	1
問題視された虬江碼頭開業（第一期建設を終り六月十二日から）	8
本年度春作農産物作付段別と収穫予想	12
拡大の兆ある密輸入品不売買運動	16
上海紗布交易所投機取締辦法	18
中日金融聯誼会成立	21

第百九十七号 1937年7月24日

北支事変と当地経済界の影響	1
綿糸布輸出税免除と人絹製品の輸入税変更	13
蕪湖植物油料廠落成（わが内地菜種油廠の勁敵出現）	17
米支金銀交換新協定成立	19
政府銀行と民間銀行の実力比較	21

第百九十八号 1937年8月7日

北支事変拡大で各業共商状悪化（漸く鋒鋦を現はす排日貨運動）	1
本年上半期の全支及上海対外貿易	15

臨時号 1937年11月10日

事変勃発後の上海経済界

臨時号 1937年12月15日

支那軍の全面的敗退と上海経済界の変化

## 第百九十九号 1938年1月15日

当地商工界復活の機運とわが要望	1
昨年 of 民国関税収入	12

## 第二百号 1938年2月17日

中支経済工作に関する当地わが商工界の意見	1
大道市政府の現状	5
当地経済ニュース一括	10
一九三七年度上海及全支対外貿易	13

## 臨時号 1938年3月25日

国民政府の新為替政策と法幣の運命

## 第二百一号 1938年4月22日

最近の為替金融状勢	1
上海英国商工会議所会頭の年次報告概要	5
三月中上海対外貿易と商品別内訳	10
在支各界の状報	16

## 第二百二号 1938年5月13日

維新政府実業部の躍進	1
国防公債及金公債の発行	7
中支戦区内支那紡績工場と在華日本紡績との協同運営	11
本年度手形交換状態	14
政府四銀行紙幣発行高	16
中支各界の状報	19

## 第二百三号 1938年5月28日

新興倶楽部誕生	1
地方金融改善辦法	4
漢口政府の為替に対する新規定	8
日本圓紙幣の変調	10
上海の物価指数	12
中支各界の情報	18

## 第二百四号 1938年6月10日

維新政府新関税公布	1
漢口財政金融会議	3

四月の全支及上海対外貿易	7
第二百五号 1938年6月25日	
為替の本格的低落と法幣の不安増大	1
主要商品輸入税率比較, 改定された輸出新税目	10
運輸・交通・通信・公共事業の当地現状	20
第二百六号 1938年7月11日	
輸入管理と並んで国府が輸出を統制（目的は外貨資金の獲得）	1
主要衣食品及び動力原料の需給現状	4
当地の各工場概況	9
各種経済要聞	14
第二百七号 1938年7月23日	
中支水路交通の動脈, 上海内河汽船会社設立	1
本年上半期の上海対外貿易（香港・広東・九龍・汕頭との比較）	4
各省政府が貿易管理委員会を組成	9
各種経済要聞	11
第二百八号 1938年8月15日	
我对中支貿易現状是正と転口税率の引下方要望	1
為替統制売実質的中止と公債元利の現金支払	6
本年上半期の全支対外貿易	10
当地邦人紡の操業現状	13
国民政府の外債未償還額（七月一日現在）	16
当地経済ニュース一束	19
第二百九号 1938年8月30日	
京滬線主要都邑の農業及び工業概況	1
当地の各種経済情報	24
第二百十号 1938年9月12日	
六月の香港対外貿易急減	1
当地紡績業近況	6
経済重心の西南移転と江浙戦区の支那銀行	10
西南六省の交通建設	13
鉱業法修正と鉱業の開発と確保	19
中央銀行が退蔵毫洋銀を収集	22

## 第二百一十一号 1938年9月24日

中支戦区内の邦人関係新企業	1
吃緊性を加へた当地の石炭需給関係	6
一九三七年末の中央銀行営業概況	10
西南六省の鉱産及び埋蔵量	12
経済情報彙集	15

## 第二百一十二号 1938年10月17日

仲秋前後の当地経済概況	1
当地経済界要聞	13

## 第二百一十三号 1938年10月29日

広州及び武漢陥落と蔣政権の経済的打撃	1
自一月至九月上海対外貿易	13
事率に因り修正された国貨暫定標準と証明規則	16

## 第二百一十四号 1938年11月13日

英人の香港前途観（香港総督の所説梗概）	1
重慶・昆明・長沙の経済界近況	5
当地経済界要聞	10

## 第二百一十五号 1938年11月30日

長江貿易の復活と振興に関する種々言	1
邦貨の輸入数量近年のレコード（実質的には非常状態を脱せず）	10
当地経済要聞	14

## 第二百一十六号 1938年12月20日

対支通商の衰勢は各国の共通的事実（上海貿易の国別統計）	1
当地の新設工場と工人生活の現状	9
当地経済要聞	18

## 第二百一十七号 1939年1月18日

国民党政府の輸出統制及び奨励政策	1
華商紡績新設状況	12
上海日本商議規則領事館令で公布さる	15
金曜会十年の小史	19

## 第二百十八号 1939年1月30日

関税担保外債の元利立替支払停止（当地市場の影響，英人側の所見，関税担保の現状）	1
当地邦人街の生活必需品小売値段	11
当地経済界要聞	20

## 第二百十九号 1939年2月28日

禁運資敵条例も敵貨禁止令も上海方面を緩和	1
海関に対する各方面の要望	5
維新政府が臨時消費税を撤廃	13
当地経済界要聞	15

## 第二百二十号 1939年3月10日

陸路転口税徴税所再開（輸入品もパス不提示は課税）	1
一九三八年の上海対外貿易	3
一九三八年の香港対外貿易	10
当地経済界要聞	15

## 第二百二十一号 1939年3月25日

法幣安定資金設定に関する情報と当地為替市場其他の影響	1
維新政府の移出貨物賑捐税	9
二月中の当地新開工場と工人生活指数及小売物価	11
当地経済界要聞	17

## 第二百二十二号 1939年4月18日

維新政府の商標法	1
軍票勘定手形交換（四月1日より実施）	6
塩税担保外債の元利支払停止（孔祥熙氏の声明，塩税担保の現状）	8
三月中の当地紡績原綿手当	11
上海と支那諸港及び香港との貿易比較	13
販売禁止の満州貨物	15

## 第二百二十三号 1939年4月30日

建設公債と軍需公債	1
税関手続未済の当地邦品在庫一万屯	7
上海及全支海関税込	11
夥しき麦酒輸入と空壕の内地向還流	13

臨時号 1939年5月10日

華興商業銀行の創立と其の紙幣発行に就て（吉田政治）

第二百二十四号 1939年5月17日

新銀行創立に関する市場の影響及外人側の所見	1
上海における最近の圓安と其要因	7
華中鉄道会社設立	11
浙東一帯の封鎖と茶・木材市場の影響	14
当地工人生活指数と同小売物価（本年四月）	16

第二百二十五号 1939年5月30日

江南交通網の現状（鉄道・バス・内河航行・航空）	1
国産自動車の大陸進出（トヨタと日産の当地活躍）	12
戦局の推移に伴ふ南支各海関の貿易消長	15
当地各市場概況	19

（附記） この作業は、2001（平成13）年度立命館アジア太平洋大学研究助成による成果の一部である。